

# 英 語 科 学 習 指 導 案

日 時 平成26年7月2日(水)  
場 所 久慈市立大川目中学校 学習室  
生 徒 2年英語スタンダードクラス  
(男子3名、女子6名、計9名)  
授業者 教 諭 大槻 浩美  
A L T Christopher Melgar

## 1 教材名

PROGRAM 3 「Charity Walk」(開隆堂 Sunshine English Course 2)

## 2 教材について

### (1) 単元内容

#### ① 言語材料

ここでは、「義務や命令について表現する」場合の『助動詞』(must + 動詞の原形、must not + 動詞の原形)と「必要性について表現する」場合の(have to + 動詞の原形、do [does] not have to + 動詞の原形)について扱う。

have to は、人称の変化、疑問文、否定文では、その用法や意味の違いなど間違えやすい点が多いことから、生徒が混乱しないように留意して指導する必要がある。

また、「義務」や「命令」、「必要性」を表す must と have to の違い、「禁止の命令」を表す must not と Don't ~ についても十分に定着を図るように指導していきたい。

「自分の考えを言う」場合の I think (that) ~. も新出事項となっているが、ここでは語句的な扱いにとどめ、『接続詞』that については、PROGRAM 5で if, when, because などとまとめて指導することで、生徒へのスムーズな定着を目指すこととする。

日常生活の決まりやルール、自国の文化などについて表現する場合によく用いられる must, have to は既習の can, will などと同様に継続してクラスルームイングリッシュの中で意識して使用するようにしていきたい。

相手に対して自分の考えを伝える I think (that) ~. は、PROGRAM 8 などの Reading 教材の After Reading の活動の中で、使用する場面を設定し、その定着化を図るものとする。

#### ② 題 材

この単元では、参加者がその大会に参加費を支払い、自分たちも「歩く」という行動によって、他の人々や団体を支援しているハワイの Charity Walk について取り上げている。また、その活動を知った生徒たちが、バザーを開催し、売上金をチャリティーグループに寄付する題材設定となっている。本校で15年間行われているユニセフ活動と共有する点があり、生徒たちには興味深い題材となっている。

生徒たちには、たとえ規模が小さくても自分たちも国際社会に貢献できる活動を長年取り組んできたことに誇りを持ち、そのような活動に対して自分の考えを表現させるようにしたい。

## (2) 生徒の実態

2年生の生徒たちは、与えられたことには真面目に取り組み、学習態度も良好である。また、英語に対して興味・関心を持ち、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。

しかし、理解の速度の差が個々の生徒によって大きいこと、基礎的・基本的内容の定着に時間がかかる生徒がいること、家庭学習で自分のためになる自学自習の態度が身についていないことなどが課題となっている。基礎的・基本的な内容の精選と個に応じた指導の工夫に心がけ、自ら英語で意欲的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めていきたい。

## (3) 指導の構想

### ① 基礎・基本の定着と個に応じた指導

多くの生徒にとって、実際に英語に触れる機会は、英語の授業のみというのが実態である。そのため1単位時間の授業の中で理解できた既習事項についても、使用する機会が少ないために、その定着が図れないのが現状である。言語学習においては、その使用回数が多いことが、その定着度にも大きく関係すると考え、可能な限り、言語活動の定着練習を多くすることに心がけてきた。

英語を、日本語を介して理解するのではなく、英語を英語として理解することがコミュニケーション能力の育成には不可欠であると考え、授業・学習シートを可能な限り英語で進めてきている。

未習の語句や英文も授業では使用し、理解できないものは自分で調べて理解させるようにしてきた。よりスピーディーに調べることができるよう生徒全員に電子辞書を与えている。

基礎・基本の確実な定着を図る活動として、授業の展開の後半部分に毎時間『課題問題』を設定し、学習した内容の定着を図るためのドリル的練習場面を設定し、定着できたかどうかを教師の前で確かめ、教師が評価する場面を取り入れ、できるようになるまで粘り強く取り組もうとする態度の育成に力を入れてきた。

### ② 『学びの連続』

「生徒に見通しを持たせる学習課題の設定」では、自然なシチュエーションでの新出文型の導入と学習活動の流れを黒板に提示することを中心に進めてきている。

「繰り返し」では、授業の導入段階で毎時間行う帯活動の内容を家庭での課題と位置づけ、家庭学習と授業との一体化を図っている。

また、『週末課題』（基礎定着編・実力養成編・応用・発展編の3段階からなるもので、毎週金曜日に生徒に配布、土日の課題とし、月曜日に回収。添削して、個々の生徒に返却）に取り組みせ、本校の『パワフルノート』の活用と共に「学習のサイクル」の確立と生徒が自ら課題を把握し、積極的にその解決に努めようとする態度の育成に努めている。

「振り返り場面の充実化」では、『自己評価問題』（授業で学習した内容がどのくらい定着できたかを確認するための評価問題）に取り組みせ、授業で学んだこと・自分で定着が不十分であることなどについて、自分でまとめさせ、自ら気づき・考え・行動する力を身に付けさせることで主体的に学ぶ生徒の育成に努めていきたいと考えている。

### ③ 『学びの空間』

「ICT・具体物等の活用」では、CD・具体物・絵・フラッシュカード・英語の歌などの活用を中心に生徒の意欲化を図っている。

「板書や学習シート等の明瞭化」では、授業の流れに沿った学習シートの活用に特に力を入けて取り組んでいる。学習シートの使用目的は、以下のとおりである。

- ア. 授業の見通しを持たせる。
- イ. 課題の提示、課題の追求とまとめ
- ウ. 基礎的・基本的学習内容の定着
- エ. 言語活動に意欲的に取り組める
- オ. 生徒の思考力・表現力などの評価に使用
- カ. 課題に対する振り返りとなる自己評価

#### ④『学びの共有』

授業中は基本的にペアで活動することになっている。英語学習では、英語を習得し、活用する場面が多いことから、ペアで協力してコミュニケーション能力を育成することを『共有』と考えている。

### 3 単元の目標

#### 【関心・意欲・態度】

- ① チャリティー活動について、いろいろな活動があることを知り、自分たちの活動についても英文で表現してみようとする。
- ② must, have to, I think を用いた表現活動に積極的に取り組もうとする。
- ③ 学習した内容をしっかり身につけるために、自ら進んで学習活動に意欲的に取り組もうとする。

#### 【表現の能力】

- ① must, have to の英文を用いて、自分の生活について表現することができる。
- ② チャリティーの話題について、簡単な英文を自分の考えを書くことができる。

#### 【理解する能力】

- ① must, have to を用いた英文を聞いたり、読んだりして、その内容を理解することができる。
- ② チャリティー活動に関する英文を聞いたり、読んだりして、様々な活動があることを理解することができる。

#### 【知識・理解】

- ① must, have to を用いた英文の形・意味・用法を理解し、プロダクトするための知識がある。
- ② 自分の考えを伝える英文の形・意味・用法を理解し、運用することができる。

#### 4 単元計画（全7時間）

時	学習内容	評 価					
		関	表	理	知	評 価 規 準	評価方法
1	・must を使った文の用法の理解と表現 (本時)	○				① must を使って義務や禁止する事から積極的に伝える。 ② 語順を理解し正しく書く。	観察 ワークシート 課題問題 自己評価問題
2	・Part1 の内容理解と音読練習			○		① 書かれている内容について正しく読み取る。 ② 意味を考えながら英文を自然な速度で読む。	ワークシート 課題問題
3	・have to を使った文の用法の理解と表現	○				① have to を使って必要性のある・なしについて表現する。 ② 語順を理解し正しく書く。	観察 ワークシート 課題問題 自己評価問題
4	・Part2 の内容理解と音読練習			○		① 書かれている内容について正しく読み取る。 ② 意味を考えながら英文を正しく読む。	ワークシート 課題問題
5	・I think ( that ) を使った文の用法の理解と表現	○				① I think ( that ) を使って自分の考えや意見を積極的に伝える。 ② 語順を理解し正しく書く。	観察 ワークシート 課題問題 自己評価問題
6	・Part3 の内容理解と音読練習			○		① 書かれている内容について正しく読み取る。 ② 意味を考えながら英文を自然な速度で読む。	ワークシート 課題問題
7	・Program3 で学習した英文の総まとめ	○	○		○	① 家庭でのそれぞれの家族の役割について表現する。	ワークシート 課題問題

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

must の英文の形・意味・用法を理解し、表現することができ、義務や禁止する事柄を正しく伝えることができる。

### (2) 本時の評価

must の英文の形・意味・用法を理解しており、義務や禁止する事柄を積極的に伝えようとすることができる。

### (3) 準備物

ワークシート、絵、紙板書、自己評価問題

### (4) 本時の展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意事項	授業の視点
導入 10分	1 帯活動 ●重要語句15 15の語(句)を日本語から英語にできるだけ速く直して言う。  2 導入 ●新出事項の提示 道路標識を説明する英文を聞いて、その内容を理解する。	◎ ペア学習。  ◎ 本時への課題へとスムーズにつながるように話題を提供する。	連続2
展 開 30分	3 本時の学習課題の設定  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             学校の『決まり』について英語で表現しよう。           </div>	◎ 本時の学習課題が自然に設定できるようにする。	連続1
	4 定着を図るための活動 ●学習シート【STEP1～3】に取り組み、新出事項の理解を深める。  5 課題解決のまとめ ●課題解決に向けて《TASK1～3》にペアで取り組み、教師の評価を受ける。	◎ 一人ひとり・グループでの定着度を確認しながら、次のステップへ進むように心がける。  ◎ 全体での練習を十分に行い、生徒がペアで取り組めるように心がける。	連続2 空間4・5  空間5 共有6・7
終末 10分	6 自己評価問題 ●「自己評価問題」によって、今日の学習定着度を自分で判断する。	◎ 自己評価・相互評価が適切にできるようにする。	連続3